

南アフリカ研修旅行を実施

2007.06.05

タイ国際航空（TG）は南アフリカ観光局の協力のもと、2007年5月18日より23日までの6日間の日程で、東京・大阪・名古屋・福岡地区の旅行会社13社ならびに新聞社2社、合計15社を対象に南アフリカ研修旅行を実施しました。

TGは昨年10月31日より、タイから南アフリカへの初の直行便となるバンコク～ヨハネスブルク便を週3便のスケジュールで就航しています。ヨハネスブルクは、300万人以上の人口を擁するアフリカ大陸内第2の都市。野生動物の見学やトレッキングといったアドベンチャー・ツーリズム、文化遺産などが楽しめる都市であると共にアフリカの金融・経済の中核都市です。また、2010年にはワールドカップの開催を控え急速にインフラ整備が進んでいます。

それぞれの出発地からバンコクにて合流した一行は、TG最新機材A340-600型機使用のTG703便にてヨハネスブルクへ。ヨハネスブルクからは南アフリカ観光局の協力を得て、ムプマランガ州に移動し、アフリカを代表する野生動物保護区の「クルーガー国立公園」、世界3大渓谷の一つ「ブライドリバーキャニオン」などアフリカの大自然を視察しました。その後、ヨハネスブルクに戻り、南アフリカ最大のタウンシップ（アパルトヘイト次代に黒人専用の居住区として指定された地域）の「ソウエト」を訪問し、反アパルトヘイト闘争に関する歴史的な施設等を見学しました。

上記の他にも様々な観光資源を有し、またアフリカ経済の中心でもある南アフリカ。今後も日本からの渡航者数の増加が期待されます。今回の研修旅行は、日本から南アフリカへの新たなルートとしてTGヨハネスブルク便の利便性を確認できるものとなりました。



写真：ヨハネスブルクの北に位置するサントン地区にあるホテル前にて



写真：クルーガー国立公園をジープにて散策する参加者



写真：世界3大峡谷ブライデリバーキャニオン



写真：クルーガー国立公園内のチーター